

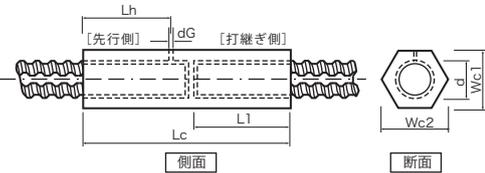
「打継ぎ用継手に"逆打ち工法"を追加」

ネジバーの機械式継手(打継用)「ネジカプラータイプ」

概要

機械式継手「ネジカプラー®」では、新たに"逆打ち工法"への適用が可能になりました。
これにより、地下のコンクリート構造物築造の代表的な工法である「逆打ち工法」や、鉄筋コンクリート建物の耐震補強工事の鉄筋継手としてお使いいただけるなど、建設工事の設計・施工ニーズへのさらに幅広い対応を可能としました。

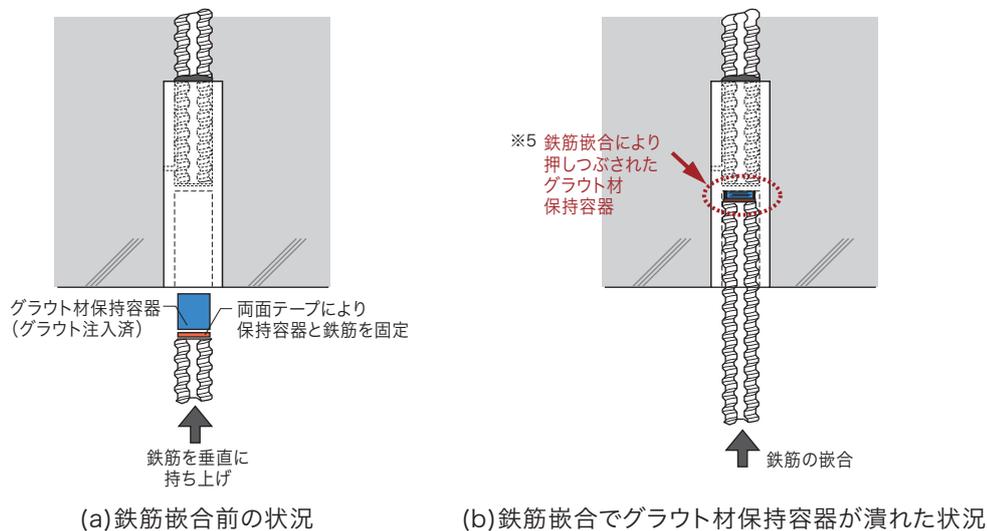
逆打ち工法 評価ならびに認定内容

材料名称	<p><機械式継手> ネジカプラー® タイプJ A級継手</p>  
評認定番号	BCJ評定 RC0399-04 ^{※1} 、RC0367-05 ^{※1}
適用対象の鋼種、呼び径 ^{※2}	<p><鋼種> 同鋼種、SD295A・SD345・SD390・SD490 <呼び名> 同径、D19～D51</p>
固定方法	<ul style="list-style-type: none"> ・無機グラウト タイプ M3 および 両側鉄筋トルク締め(180N・m) ・有機グラウト タイプ Y および 両側鉄筋工具締め^{※3}
打継ぎ側接合方向	上向き、横向き、逆打ち
付属器具 ^{※4}	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><キャップ></p>  <p>打継ぎ側の養生の目的で使用 当社指定品</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><グラウト材保持容器></p>  <p>逆打ち施工時の無機グラウト材注入の目的で使用、当社指定品</p> </div> </div>

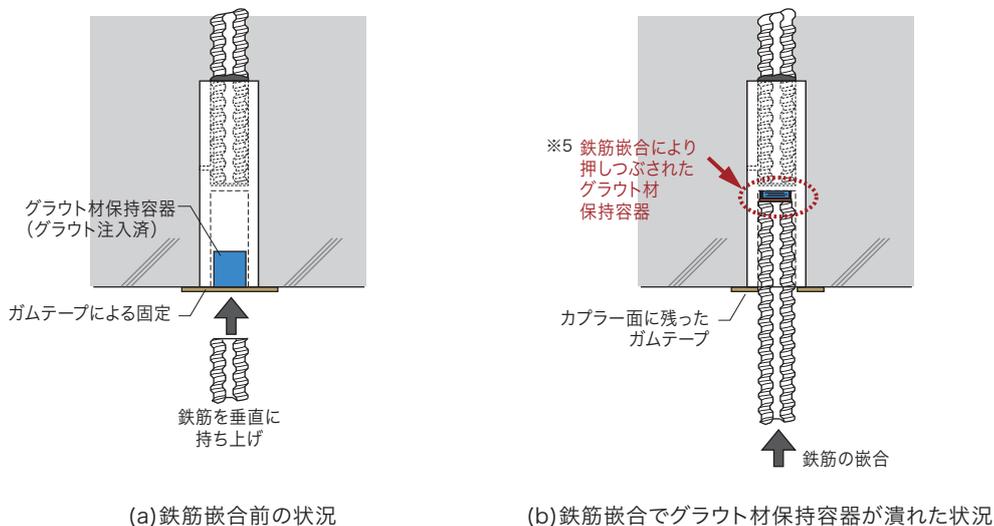
逆打ち工法における 鉄筋の接合方法（打継ぎ側接合）

逆打ち工法におけるグラウトの注入は、グラウト材保持容器の固定方法に応じて、以下の2通りの方法を用意しております。

逆打ち工法における鉄筋の嵌合要領1(両面テープタイプ)



逆打ち工法における鉄筋の嵌合要領2(ゴムテープタイプ)



※1 RC0399-04:一財)日本建築センター評定、平成29年 7月19日取得 件名:ネジバーの機械式継手(無機グラウト固定式)打継ぎ用継手
RC0367-05:一財)日本建築センター評定、令和元年12月18日取得 件名:ネジバーの機械式継手(有機グラウト固定式)打継ぎ用継手

※2 異径差、異鋼種間での使用はできません。

※3 有機グラウトタイプYは、工具による締め付けが必要ですが、トルク値の指定はありません。

※4 付属器具は、当社指定品のみ使用可能です。通常、グラウト材保持容器には、注入量を示す目盛り線は入っておりません。

※5 グラウト材保持容器は、輸送時の形状保持、ならびにカプラー内部での易圧壊性を有する樹脂製です。当容器は打継ぎ側鉄筋の嵌合で、カプラー内部に残存しますが、カプラー端部が鉄筋マーキング範囲内に位置することで、必要な嵌合長さを確保できます。

お問合せ

03-5777-3820 鉄筋棒鋼営業部
06-6443-3364 西日本鉄筋棒鋼営業部



JFE条鋼株式会社

JFE